

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みずきキッズクラブ 児童発達支援事業所		
○保護者評価実施期間	2024年12月16日		～ 2024年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	2024年12月16日		～ 2024年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月10日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員は保育士や教員免許を所有している者が多い	<ul style="list-style-type: none"> 基準以上の配置になるようにしている。 放デイとの多機能型の為、放デイがない午前中は特に手厚く支援ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> より専門性を活かしたプログラムが実施していけるように、研修等を交えて専門性を高めていきたい。 児童福祉事業の経験年数が少ない職員もいる為、社内研修の充実を図りつつ、外部研修への積極的に参加できるように体制を整えていく。 職員間で意見を出し合える環境をより構築していく。
2	幼稚園や保育所の流れに合わせ、日々の流れを作っている	<ul style="list-style-type: none"> 1日を通してご利用ができる。 幼稚園や保育園の流れに合わせる事で「こんなときどうする」が実際の場面として経験し実用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園や保育園で困っている事、困る事、これができるいたら等具体的な所を聞き支援に取り入れていく。 1日を通して利用になる為、1日を通して支援しているからこそできる支援ができるとより強みになる。
3	・担当者会議等への参加、連携	<ul style="list-style-type: none"> 担当者会議等には、実際支援に携わっている職員も一緒に参加し、より連携ができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路をご家族様に聞き取りしながら、進路に向けて何が必要か、どう連携していくかを相談しながら進めていく(同じ方向性を持ち取り組んでいく)。 定期的に会議を設ける事で、一貫性のある支援ができるようになる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・個別の空間を設定しづらい	<ul style="list-style-type: none"> 部屋数が少ない。 体を動かすと狭い。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達については、体を動かす際は放課後等デイサービスの部屋も使用し、広く使えるようにしている。 必要に応じてパーテーションやマットの色を変え工夫している。 ゆっくり過ごせるスペースとして図書室を設定した。 必要に応じて間仕切りできるようカーテンの設置や柵等で区切る工夫。 刺激をできるだけ排除し、落ち着いて行動できる環境の設定。
2	・事業所外での他児との交流	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍があり、保育所やこども園、幼稚園へお願いするのに気が引けてしまう。 地域資源を利用し、その際に事業所外の方と関わる機会を設けている。しかし、対象として小さい児童さんが多く、同じ年代の方との関わりは薄い。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源をこれまで同様利用しながら、他者との関わりや地域の人との関わりを増やしていく。 さまざまな人との関わる機会づくりや人とつながる力を育てるよう関わりを増やしていく。
3	・家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や研修会等への提供の機会がない	<ul style="list-style-type: none"> 研修を実施した職員が管理者のみ。 相談等は都度聞いており、トレーニングとしては実施していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修へ参加し知識を得る。 ペアレント・トレーニングの研修をする事で職員も子供たちへの正しい接し方を学ぶことができ、より良い支援につながる。